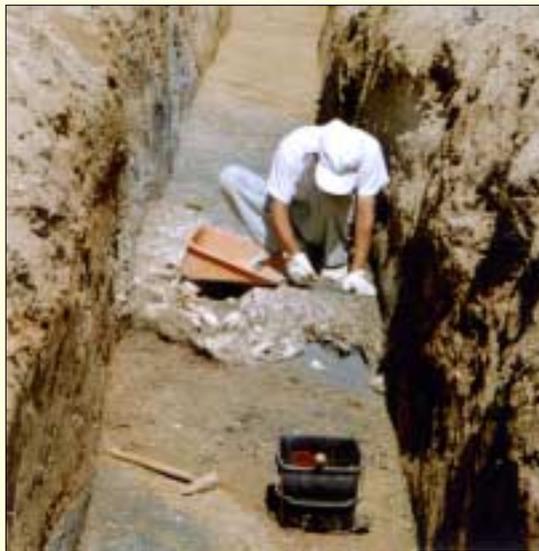


◎シリーズ 長岡京歴史散歩

⑬

長五小校区の遺跡

カキの化石層を発見



▲ カキ化石の出土状況

平成14年9月におこなった走田古墳群の発掘調査では、地形の変化が著しく、古墳を確認することはできませんでした。しかし、丘陵内に設けた4本の調査区のうち、2カ所から当初予想もしていなかったカキ（種類はマガキ）の化石層が発見されました。調査地は走田神社の西側。標高は約90分の竹やぶです。今回は、地層の調査とカキ化石層の調査報告書からその概要を紹介します。

カキの化石層は、竹やぶ客土の下にたい積する大阪層群（大阪平野から京都、奈良盆地に分布する地層）の泥層と礫層には含まれた海成粘土層から発見されました。海成粘土は、大阪湾から海水が進入してたい積した層であり、たい積物の検討から当地は海と川のたい積が重なる内湾の奥に想定されています。



▲ 基盤層にたい積する大阪層群

一方、マガキは密集して生息していた状態が確認されており、一部は山側からの土石流に覆われています。当地にマガキが繁茂していた時期は、現在のところ鍵層となる海成粘土層の層準が未確定のため、70万年前ごろか、90万年前ごろと考えられています。

地球の気候変化と地殻の変動を目の当たりにした調査でした。